

2016年度 韓国社会福祉学会春季学術大会報告

韓国社会福祉学会春季学術大会での自由研究発表報告

金慧英

関西学院大学人間福祉研究科

韓国社会福祉学会春季学術大会が、2016年4月29日、30日の二日間、韓国のプサンのBEXCOで開催された。大会のテーマは、「現在の社会福祉の必要性を問う」であった。日本から招聘された発表者は、日本人研究者及び日本の大学・研究機関に所属する韓国人研究者の計7名であった。

筆者は、韓国人として日本の大学院で勉強している点を活かし、日韓比較を視野に入れながら研究を進めてきた。今回の大会では、関西学院大学の石川久展教授と共同で「韓国の管理職と介護職員の勤務環境に関する研究：インタビュー調査の結果から」というタイトルの発表を行った。タイトルからもわかるように、研究を進めていくうえで、韓国の研究者との学術交流が必要と考えて、本大会への参加を申請した。幸い、申請が認められ、今回、発表させていただくことができた。

今回、参加してみて興味深かったのは、20分の発表後に10分程度の質疑応答をする形式は日本社会福祉学会と同様であるが、韓国社会福祉学会では発表者ごとに、コメンテーターがついていたことである。筆者の発表を担当してくださったコメンテーターの先生は、日本に留学の経験があり、日本語が上手な方だった。とても感動したのは、筆者の発表内容をより深く理解するために、筆者の過去の研究論文まで目を通したうえで、実に丁寧なコメントをしてくださったことである。フロアの韓国側の研究者の方々からも、多くの貴重な助言を頂くことができた。さらに、発表終了後も、認知症ケアや管理職の質の確保などの課題について、意見交換をすることができ、とても有益かつ充実した時間となった。

このような機会を与えてくださった日本社会福祉学会、貴重な助言をしてくださった韓国の研究者の方々に対して、心から感謝したい。今後も、韓国社会福祉学会との学術交流を続けていきたいと考えている。